

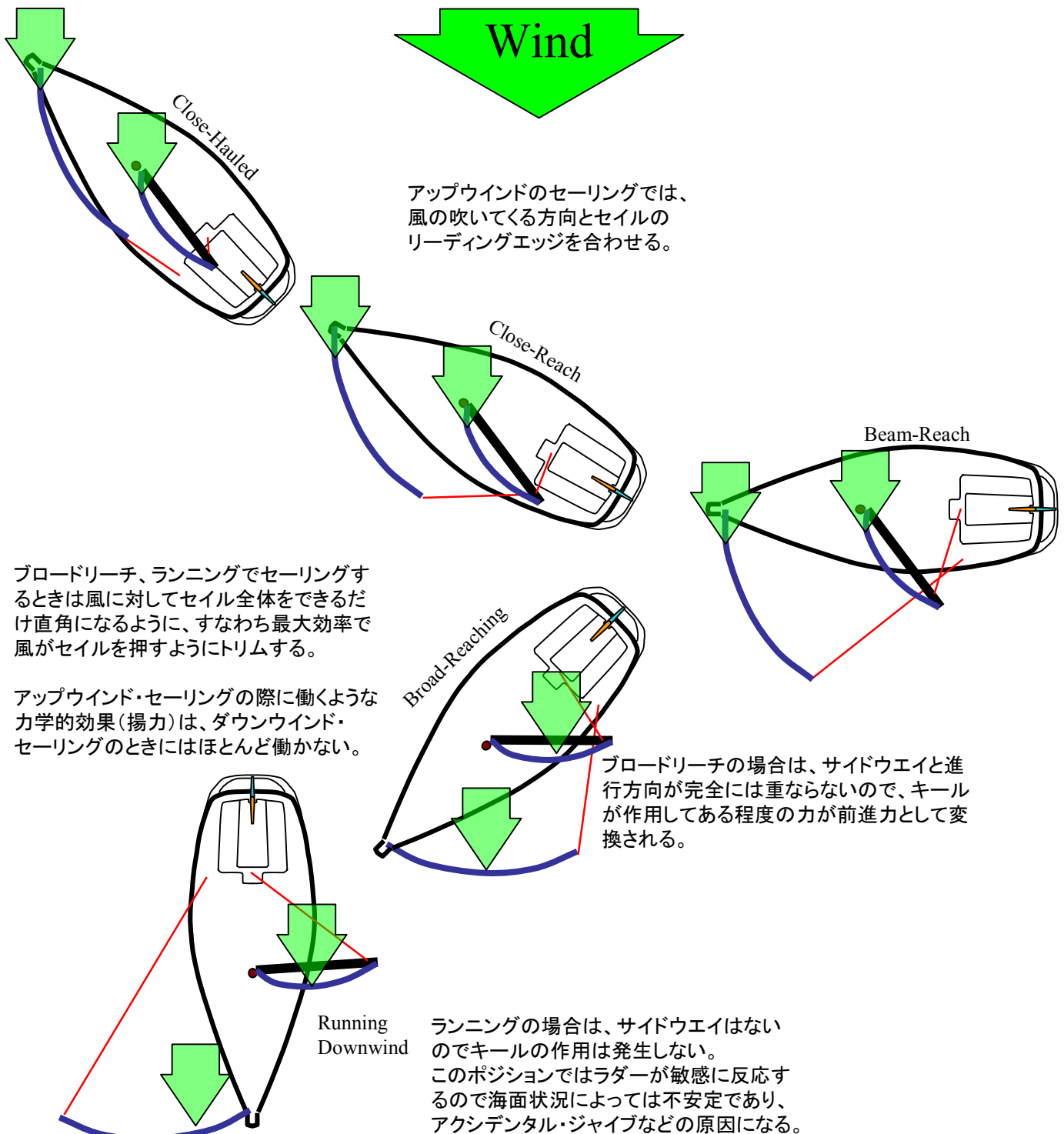
# ベーシックセイルトリム (Basic Sail Trim.)

セイルトリムはクルーの役割。

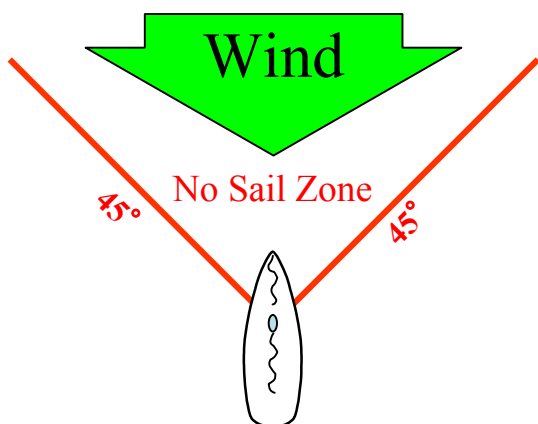
フォアセイルトリマー、メインセイルトリマーなどそれぞれの役割が与えられたクルーはシートやブロック位置などを調整し、風に合わせてできるだけ最適な角度にセイルを調整する。

セイルトリムの基本はセイルのリーディングエッジ(ラフの部分)が風の吹いてくる方向に平行になるようにシートを出し入れして調整することにある。

従って、ヘディングアップしたときにはシートを引き、ベアリングオフのときにはシートを緩める操作を行う。

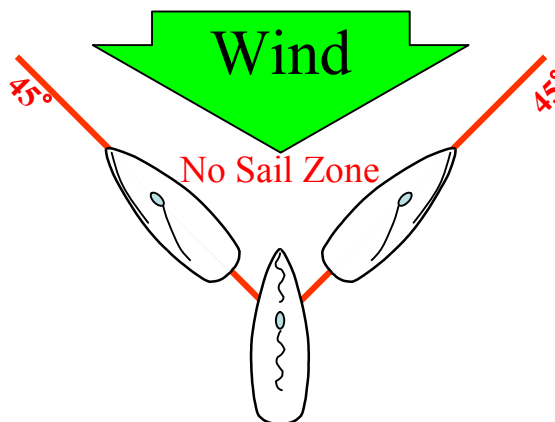


ヘッド・トゥー・ウインド (Head to Wind)



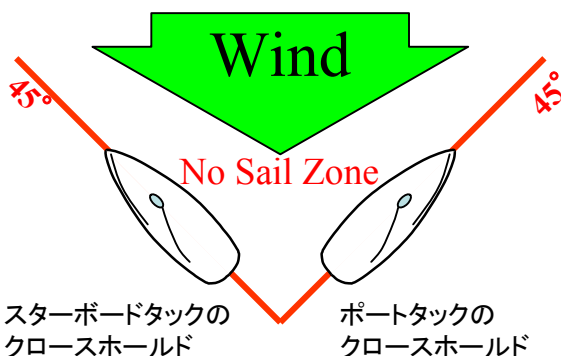
風に正対している状態(インアイアン)

ノー・セイル・ゾーン(No Sail Zone)



クローズホールドが風に切りあがることのできる限界  
スターボード・タックのクローズホールドとポート・タックのク  
ローズホールドの内側のゾーンはセーリング不可能な範囲

クローズ・ホールド(Close Hauled)



平均的なクルージングボートの場合、風に対して45°まで切り上  
ることができる。風に対してできるだけ切りあがって走るポイント・オ  
ブ・セイルがクローズホールド。

この状態を維持するには、

- ①メインシートを引き、メインセイルをできるだけ船のセンター近くに引き込む。
- ②フォアセイルはシェラウドやスプレッダーに触れない程度にできるだけ引き込む。
- ③フォアセイルがラフィングをはじめるところまでヘディングアップし、次にラフィングが止まるまでベア・オフし、フォアセイルのラフ両面についているテルテールがスムーズに流れるポイントを維持するようにコースをとる。

この状態がクローズ・ホールド。一旦セイルのポジションがきまったあとは、ヘルムスマンがヘルムをコントロールすることにより、クローズホールドの状態を維持する。

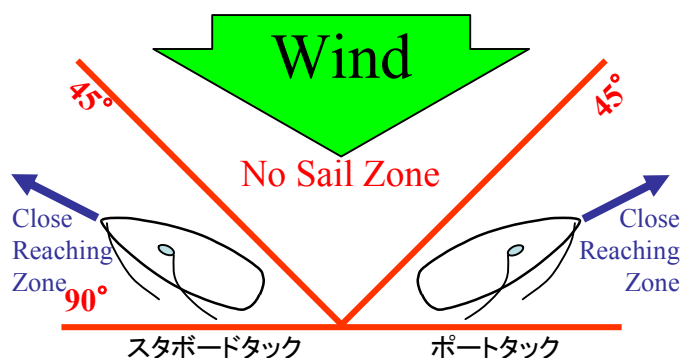
クローズホールドからベアリングオフした時点で船はリーチングの状態となる。

リーチングは二つのゾーンと一つのチャンネルに分かれる。

- ① 「クローズリーチゾーン」 風に対して45° ~89° のゾーン
- ② 「ビームリーチチャンネル」 風を90° (真横) から受けるチャンネル
- ③ 「ブロードリーチゾーン」 風に対して91° ~135° のゾーン

クローズホールドからベアオフを続けると、上記の三つのゾーンとチャンネルを通り、ランニングチャンネルに到達する。これらの三つの状態でセーリングすることをリーチングを称する。

## ①クローズ・リーチ (Close Reach)



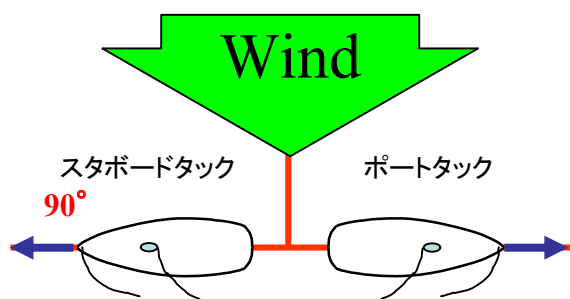
クローズホールドとビームリーチの間のゾーンで帆走するのが、クローズリーチ。

ヘルムスマンは針路を維持し、クルーはみかけの風に合わせてセイルをトリムする。

クローズリーチでセーリング中の基本操作は、

- ①ヘッドアップしたときにはシートを引く。
- ②ベアオフしたときにはシートを緩める。セイルトリムの要領は、クローズホールドと同様、
  - ①フォアセイルはテルテールを見ながらトリムする。
  - ②メインセイルは
    - (1)セイルのリーチについているテルテールがなびくようにトリムする。
    - (2)セイルをラフィングし、そのラフィングが止まるポイントを見つける。

## ②ビームリーチ (Beam Reach)



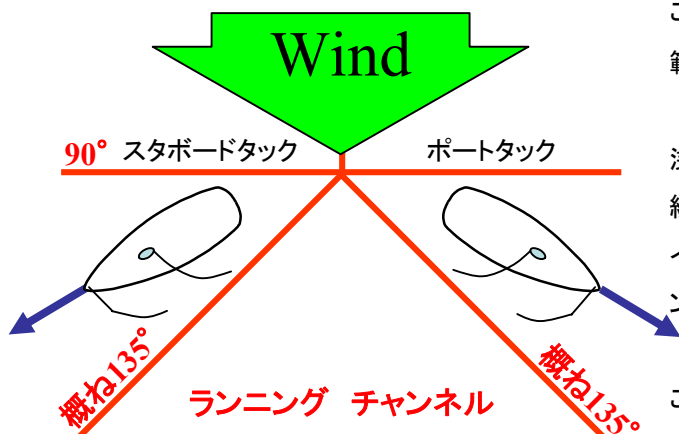
風を真横(アビーム)から受けて走る状態がビームリーチ。

- ①ビームリーチは一般的なセイルボートが最も速く、安定して走れるポイントオブセイルである。
- ②セイルトリムの要領はクローズリーチと同じ。

セイルトリムの要領は、クローズホールドとクローズリーチと同様、

- ①フォアセイルはテルテールを見ながらトリムする。
- ②メインセイルは
  - (1)セイルのリーチについているテルテールがなびくようにトリムする。
  - (2)セイルをラフィングし、そのラフィングが止まるポイントを見つける。

## ③ブロードリーチ (Broad Reach.)



ビームリーチからベアオフするとブロードリーチゾーンに入る。このゾーンはランニングチャンネルの端(概ね135°)までの範囲である。

浅いブロードリーチ(ビームリーチに近い範囲)からベアオフを続けながらフォアセイルを見ていると、フォアセイルがメインセイルのブランケットに入って、有効な風を受けられなくなるポイントに達する。

このポイントがランニングチャンネルへの分岐端になる。このポイントはフォアセイルとシートがだらりと垂れ下がることで判断できる。

セイルトリムの要領は、

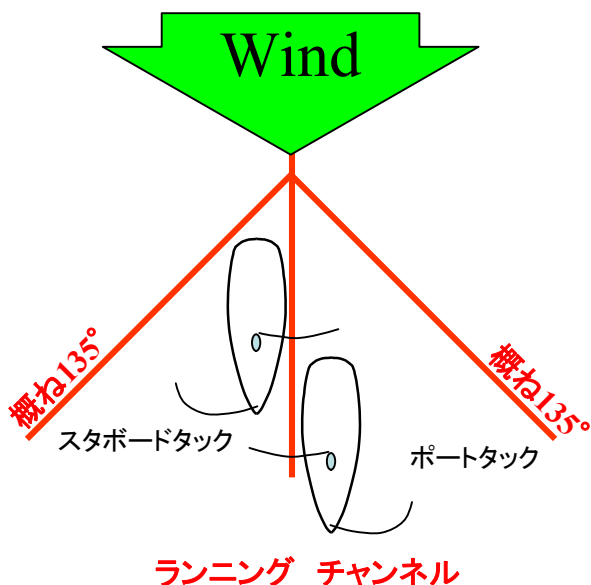
### ①フォアセイル

- (1)浅いブロードリーチの範囲では、テルテールを見ながらトリムする。
- (2)ある段階からテルテールが有効なインディケーターにならなくなるので、以降は有効な風圧面積を確保できるように調整し、シートの引きすぎには注意する。

### ②メインセイル

- (1)浅いブロードリーチの範囲は、セイルのリーチについているテルテールがなびくようにトリムする。
- (2)浅いブロードリーチの範囲は、セイルをラフィングし、そのラフィングが止まるポイントを見つける。
- (3)テルテールが有効なインディケーターにならなくなったら、セイルのラフに若干のパワーキャンセルエリアが発生する程度をめどにシートを調整する。シートを出しすぎると、セイルがスプレッダーやシェラウドに押し付けられ破損の原因になるので要注意。メインシートのカウの位置、ブームバングのテンション等セイルトリムに影響する他の要素も考慮する。

## ダウンウインド (Downwind.)



ポート、スターボード、両タックのブロードリーチゾーンに挟まれた狭いチャンネルがランニングチャンネル。

風をほぼ真後ろから受けてのセーリングになる。

このときには、危険なアクシデンタルジャイブにつながるセーリングバイザリーをおこさないようにヘルムスマンは最大の注意をはらわなければならない。

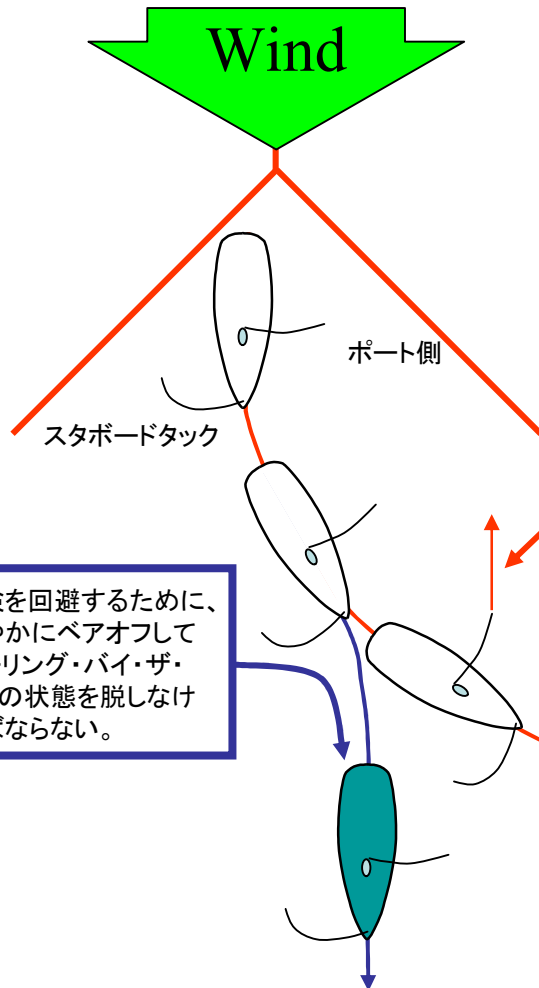
フォアセイルはメインセイルのブランケットにならないように、反対側に張り出して帆走する。

この状態を「ウイング・オン・ウイング」(観音開き)という。

セイルトリムは、セイルに発生する風圧面積を最大限になるようにトリムする。特にフォアセイルの出しすぎ、あるいは引き込みすぎに注意する。

(Sailing by the Lee & Accidental Gybe.)

図のように、ダウンウインド、スターボードタックで帆走中のセイルボートがポート側にヘッド・アップしてしまった場合、メインセイルが風の入ってくるサイドと同じ方向(ポート側)に張り出していくことになる。(メインセイルのリーチとブームエンドが風の吹いてくる方向に向いていく)  
このように、メインセイルとブームが出ている方向から風が入ってくる状態をセーリング・バイ・ザ・リーと称する。



船がそのままヘッドアップを続けると、ブームが完全に風の方を向く。

危険を回避するために、速やかにベアオフしてセーリング・バイ・ザ・リーの状態を脱しなければならない。

## アクシデンタル・ジャイブ (Accidental Gybe)

セーリング・バイ・ザ・リーにより、風がメインセイルの裏側(ポート側)から入り、ブームとメインセイルが反対舷側(スターボード側)に猛烈な勢いで反転する現象。スイングするブームによりブームパンチを受けて死傷事故につながったり、船体やギアを破損したり、デスマストすることもある。  
帆走中、最も危険なことの一つであり、ダウンウインド帆走の際には常に注意を払わなければならない。